

私立大学定員管理の厳格化が東日本の
公立高等学校に与えた影響
—地域と進学実績を説明要因として—

末永 仁, 倉元直樹 (東北大学)

《 研究のきっかけ 》

2019年6月 首都圏にある有名私立高校を訪問し進路指導主事と面談

進路指導主事の話

- 1 2019年度入試は特に東京23区等の都市部の私立大学がとても厳しい結果だった。例年なら合格できる生徒も合格できなかった。
- 2 2018年度入試も厳しかったが、2019年度入試はさらに厳しかった。
- 3 私立大学志望の生徒の中に、浪人を避けるため、志望順位の低い大学に進学した生徒が多数見られた。
- 4 要因は私立大学の合格者数の絞り込み(定員管理の厳格化)と思われる。

私立大学定員管理の厳格化

私立大学定員管理の厳格化が
2016年度入試より始まる。

研究の目的

地方から都市部の大学への人口流出抑制
という政策目的に、私立大学定員管理の
厳格化がどのように寄与したか、地域と
進学実績の観点から検討する。

直接的影響指標

私立大学 9校

東京都内にある，志願者が多い，高い難易度

慶應大学	早稲田大学	青山学院大学
上智大学	中央大学	東京理科大学
法政大学	明治大学	立教大学

調査対象の高等学校

直接的影響指標とした大学を志願する生徒が多い
北海道，東北，関東（東日本）の公立高等学校。

直接的影響指標として，大学の合格者数について
厳格化の前後で高等学校別に調査し，集計した。

高等学校の選定基準

普通科公立高等学校

- 難関国立大学に直近 5年間で5名以上の合格者を出している普通科公立高等学校

難関国立大学 = 旧帝大 + 東京工業大 + 一橋大 と定義

高等学校の選定基準

普通科公立高等学校

- 難関国立大学に直近 5年間で5名以上の合格者を出している普通科公立高等学校

難関国立大学 = 旧帝大 + 東京工業大 + 一橋大 と定義

- 中高一貫校ではなく、1学年4クラス以上の普通科公立高等学校

調査対象高等学校の所在地域（4区分）

- 東京都内の私立大学の合格者が多い東日本
 - 北海道
 - 東北（青森，岩手，宮城，秋田，山形，福島）
 - 北関東（茨城，栃木，群馬）
 - 首都圏（埼玉，千葉，神奈川，東京）

さらに

北海道，東北，北関東を地方と中核（中枢中核都市）に分ける。

- 1 北海道・地方 2 北海道・中核
- 3 東北・地方 4 東北・中核
- 5 北関東・地方 6 北関東・中核

首都圏は

- 7 東京郊外 8 政令指定都市 9 東京23区

以上9区分の中から調査対象校を選定した。

進学実績ランキング

1学年在籍数に対する難関国立大学合格者数の割合に基づき5ランクに分類

- S：40%以上
- A：20～40%
- B：10～20%
- C：5～10%
- D：5%以下

所在地域のランクによる調査対象高等学校数

	Sランク	Aランク	Bランク	Cランク	Dランク	地域合計
1 北海道・中核	2	4	0	1	1	8
2 北海道・地方	0	1	6	5	1	133
3 東北・中核	1	7	3	8	0	19
4 東北・地方	0	1	1	16	7	25
5 北関東・中核	3	3	4	1	0	11
6 北関東・地方	1	1	2	9	5	18
7 首都圏・東京郊外	3	3	6	8	9	29
8 首都圏・政令指定都市	3	2	2	6	2	15
9 東京23区	2	2	0	3	1	8
各ランク合計	15	24	24	57	26	146

分析方法

各指標に対する進学者数の年平均値の差を見る。

厳格化以後 - 厳格化以前 = 差（従属変数）

（2016～2020年）（2010～2015年）

分析対象校が立地する地域（説明変数1）

分析対象校の進学実績ランキング（説明変数2）

分析に用いたのは**数量化 I 類**である。

分析結果

基礎集計結果

	平均値	標準偏差	最大値	最小値
有名私立大学	-8.9	41.1	139.8	-132.1
難関国立大学	-0.2	8.6	36.8	-27.5
地元国公立大学	1.3	8.1	29.4	-30.7
地方国公立大学	2.8	16.6	60.9	-35.9

※ 値は数量化 I 類による分析の従属変数となる

- 有名私立大学の平均値のマイナスが最も大きく、厳格化の影響が感じられる。

基礎集計結果

	平均値	標準偏差	最大値	最小値
有名私立大学	-8.9	41.1	139.8	-132.1
難関国立大学	-0.2	8.6	36.8	-27.5
地元国公立大学	1.3	8.1	29.4	-30.7
地方国公立大学	2.8	16.6	60.9	-35.9

※ 値は数量化Ⅰ類による分析の従属変数となる

- 有名私立大学の平均値のマイナスが最も大きく、厳格化の影響が感じられる。
- 有名私立大学の標準偏差が最も大きく、最大値、最小値も3桁に達しており、厳格化の影響が一樣ではないことが感じられる。

基礎集計結果

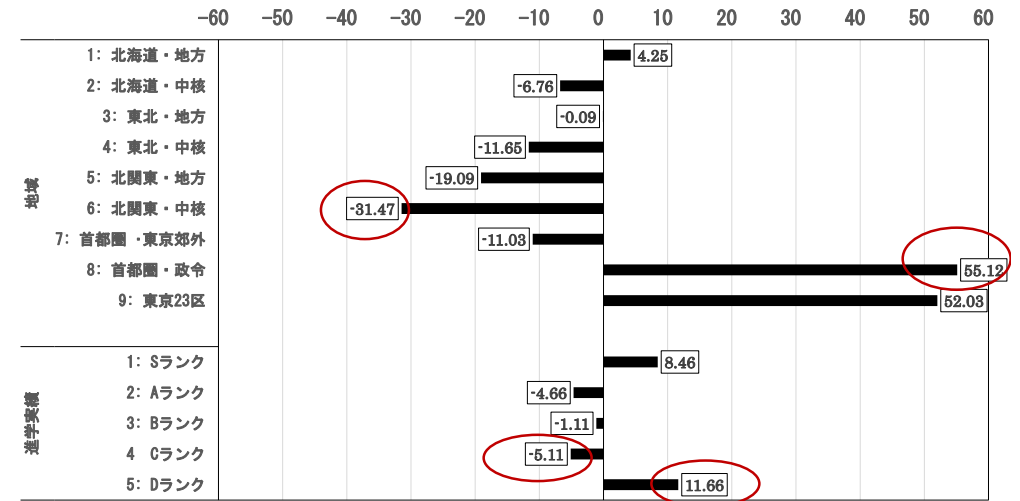
	平均値	標準偏差	最大値	最小値
有名私立大学	-8.9	41.1	139.8	-132.1
難関国立大学	-0.2	8.6	36.8	-27.5
地元国公立大学	1.3	8.1	29.4	-30.7
地方国公立大学	2.8	16.6	60.9	-35.9

※ 値は数量化Ⅰ類による分析の従属変数となる

- 有名私立大学の平均値のマイナスが最も大きく、厳格化の影響が感じられる。
- 有名私立大学の標準偏差が最も大きく、最大値、最小値も3桁に達しており、厳格化の影響が感じられる。
- 国公立大学の平均値は、-0.2~2.8であり、有名私立大学ほどの変化は見られない。

数量化 I 類による分析

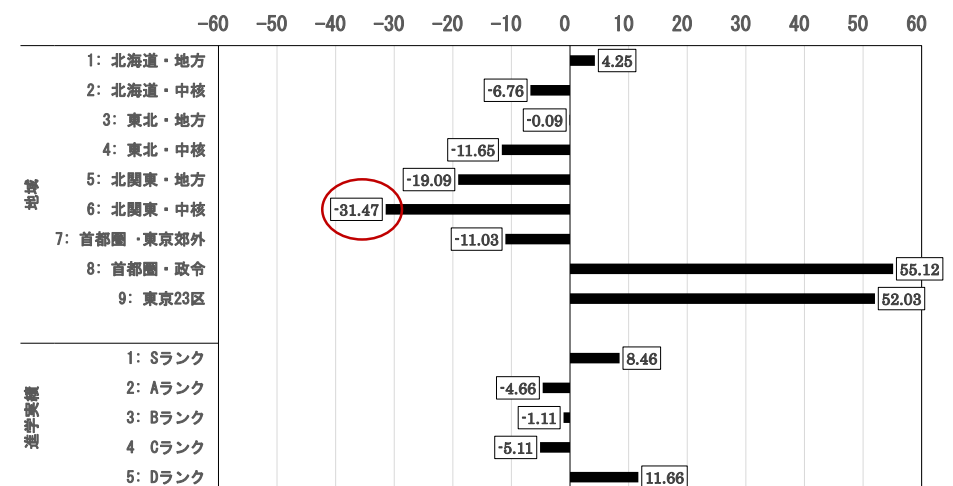
厳格化前後における有名私立大学合格者数の増減



数量化 I 類による分析

- 有名私立大学
 - 「地域」のレンジが86.6と大きく、**地域間格差が大きい**。「進学実績ランキング」のレンジは16.8と比較的小さな値である。

厳格化前後における有名私立大学合格者数の増減



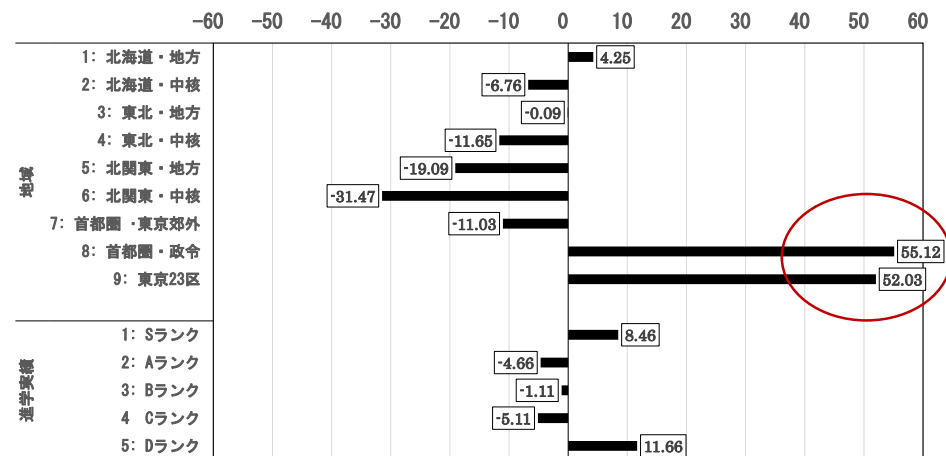
数量化 I 類による分析

1 有名私立大学

(1) 「地域」のレンジが86.6と大きく、地域間格差が大きい。「進学実績ランキング」のレンジは16.8と比較的小さな値である。

(2) 「北関東・中核」のカテゴリー値が-31.5と負の方向で最も大きく、厳格化の影響を最も大きく受けたと考えられる。

厳格化前後における有名私立大学合格者数の増減



数量化 I 類による分析

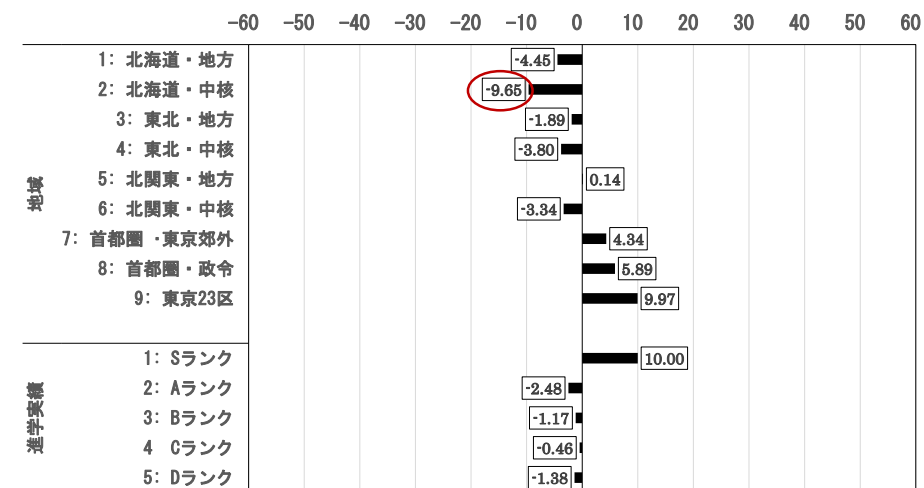
1 有名私立大学

(1) 「地域」のレンジが86.6と大きく、地域間格差が大きい。それに比べ、「進学実績ランキング」は16.8と比較的小さな値である。

(2) 「北関東・中核」のカテゴリー値が-31.5と負の方向で最も大きく、厳格化の影響を最も大きく受けたと考えられる。

(3) 「首都圏・政令」、「東京23区」は逆に大きく数値を伸ばした。

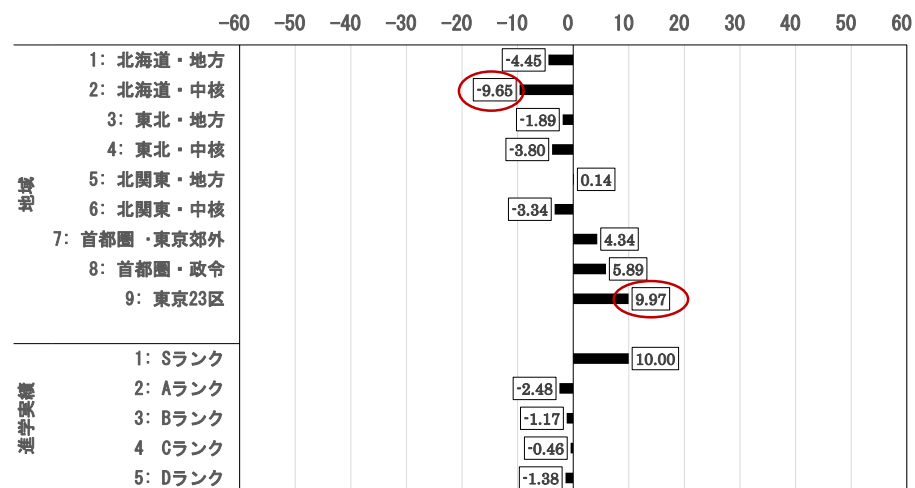
厳格化前後における難関国立大学合格者数の増減



2 難関国立大学

(1) 最も進学実績を落としていたのは「北海道・中核」であった。

厳格化前後における難関国立大学合格者数の増減

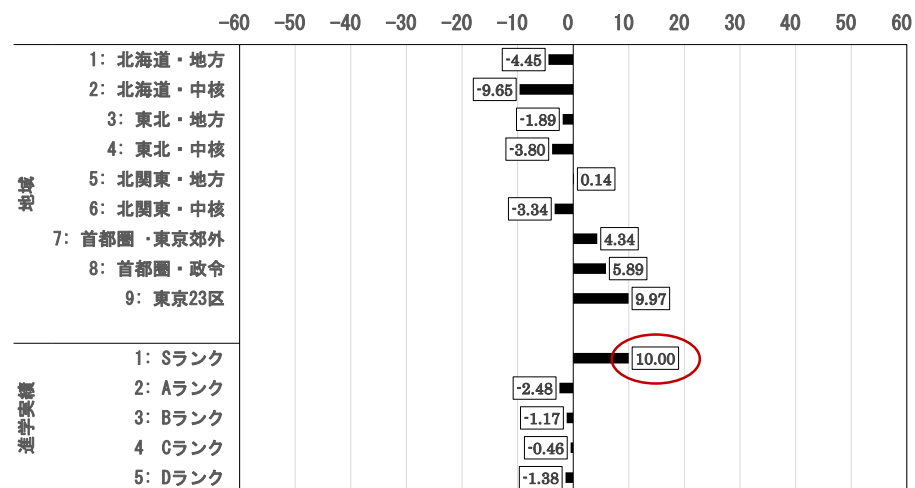


2 難関国立大学

(1) 最も進学実績を落としていたのは「北海道・中核」であった。

逆に、「東京23区」は比較的大きく数値を伸ばしている。

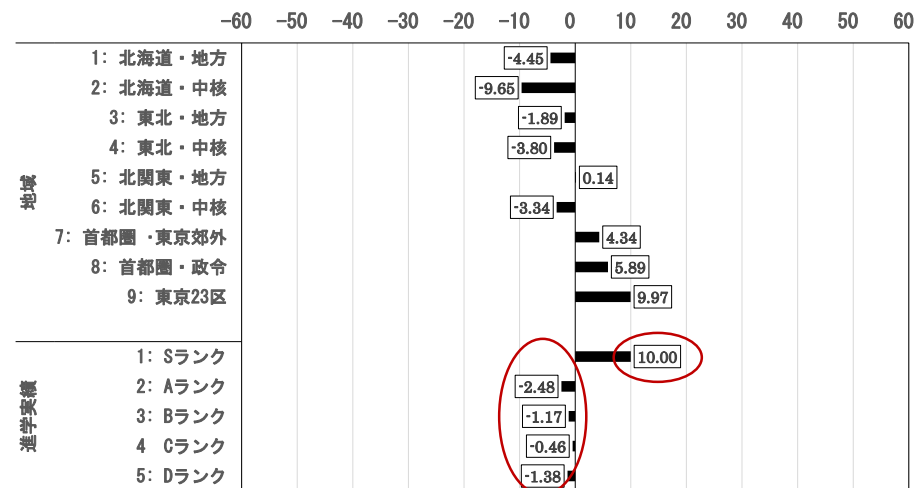
厳格化前後における難関国立大学合格者数の増減



2 難関国立大学

- (1) 最も進学実績を落としていたのは「北海道・中核」であった。
逆に、「東京23区」は比較的大きく数値を伸ばしている。
- (2) 最も顕著に違いが表れたのは、「進学ランキング」の「Sランク」とそれ以外である。

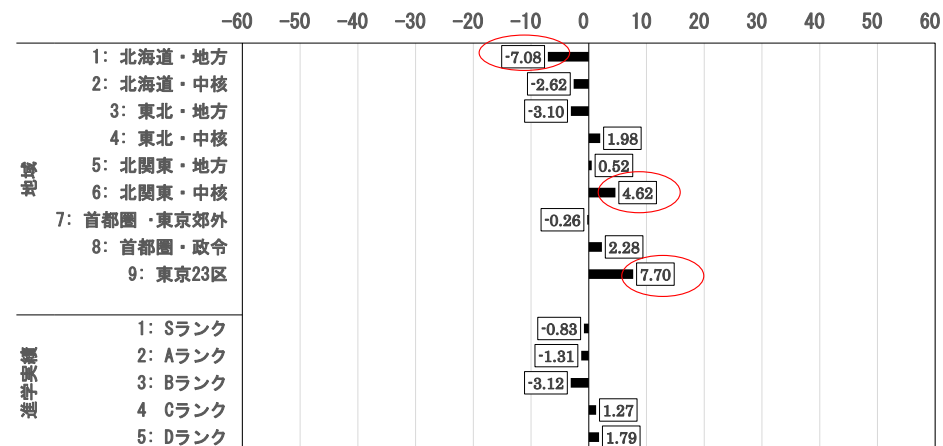
厳格化前後における難関国立大学合格者数の増減



2 難関国立大学

- (1) 最も進学実績を落としていたのは「北海道・中核」であった。逆に、「東京23区」は大きく数値を伸ばしている。
- (2) 最も顕著に違いが表れたのは、「進学ランキング」の「Sランク」とそれ以外である。
「Sランク」が 10.0と大きく数値を伸ばしていたのに対し、「Aランク」以下は軒並み微減の傾向となった。

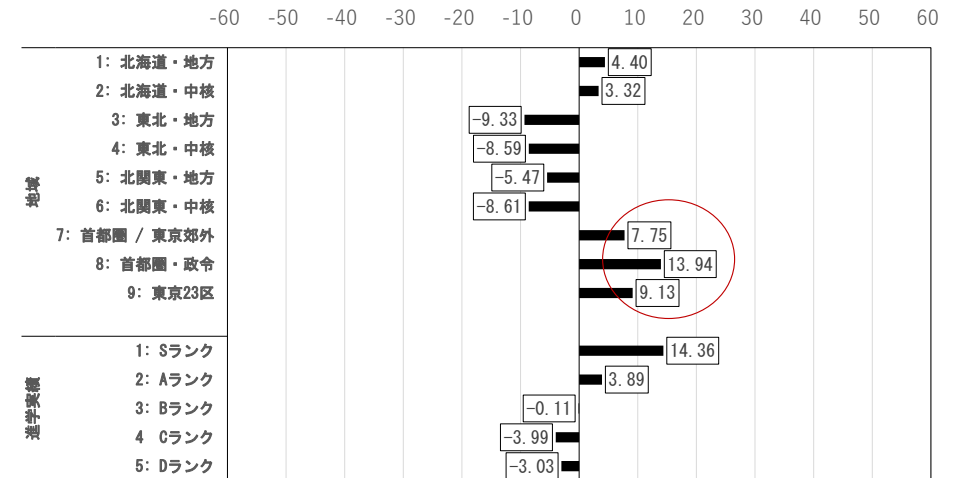
厳格化前後における地元国公立大学合格者数の増減



3 地元国公立大学及び地方国公立大学

- (1) 地元国公立大学の進学実績を落としていたのは、「北海道・地方」であり、北海道は全体的に実績が落ち込んでいる。逆に、北関東・中核は4.6と、厳格化による有名私立大学進学実績減少の影響を少し取り戻している。

厳格化前後における地方国公立大学合格者数の増減



3 地元国公立大学及び地方国公立大学

- (1) 地元国公立大学の進学実績を落としていたのは、「北海道・地方」であり、北海道は全体的に実績が落ち込んでいる。逆に、北関東・中核は4.6と、厳格化による有名私立大学進学実績減少の影響を少し取り戻している。

- (2) 「東京23区」は、地元国公立大学及び地方国公立大学ともに進学実績を伸ばしている。また、「首都圏・政令」も地方国公立大学の進学実績を大きく伸ばしている。

ま と め

1 「地域」と「進学ランキング」という2要因を取り上げ、厳格化の影響の大きさに違いがあるかどうか調べた結果、影響には地域に偏りが見られ、特に影響が大きかったのは北関東と東北の中核都市であった。



厳格化の影響を最も受けた北関東や東北地方の中核都市にある高等学校の新たな進路指導戦略の成果として、一部が地元の国公立大学に向かったことが判明した。

2 首都圏の政令指定都市や東京23区の高等学校は、有名私立大学の合格者数を相対的に大きく伸ばし、さらに難関国立大学や地方国公立大学の合格者数も増加させた。



地域的な側面から顕著な格差拡大が起こっている。

3 私立大学定員管理の厳格化の影響により、単に難易度の低い大学に志望を変更するのではなく、難関国立大学を含む国公立大学に向かう受験生の動向がわずかながら確認されたが、それだけでは説明できない。

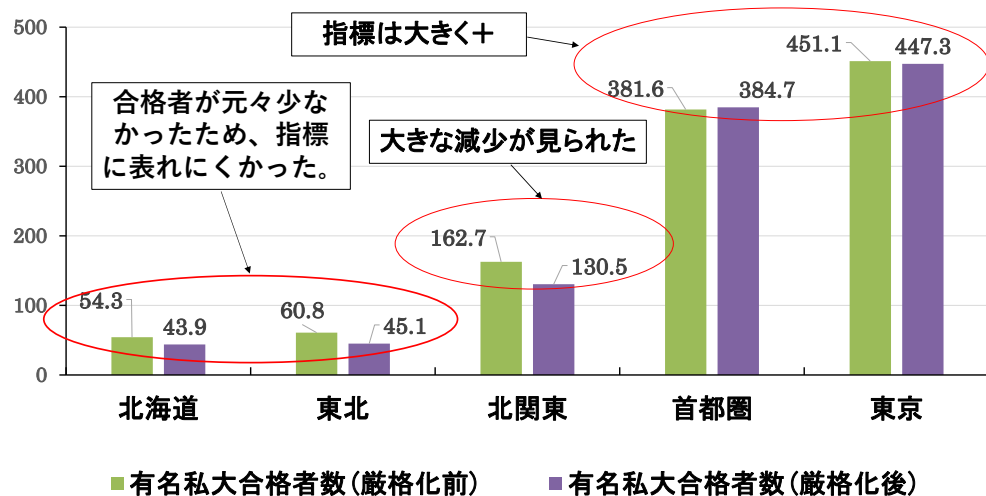
このことから、特定の地域においては厳格化が「地方から都市部の大学への人口流出の抑制」に寄与した可能性はあるが、行き場をなくした地方の生徒に「トリクルダウン」が顕著に起こった可能性がある。

高等学校1校当たりの厳格化前後における合格者数(実数)の比較(補足)

厳格化前の6年間(2010年度~2015年度入試)と厳格化後の5年間(2016年度~2020年度入試)の各高等学校1校当たりの合格者数(実数)の平均値。

北海道, 東北, 北関東, 首都圏, 東京(23区)として, 有名私立大を示す。

厳格化前後の高等学校1校当たりの有名私大合格者数(実数)



本研究の限界

- 1 取り扱ったデータは厳格化前後の各高等学校の合格者数のみであり、それが全て「私立大学定員管理の厳格化の影響」とは言い切れない。
- 2 指標とした大学や地域は限られている。

ご清聴ありがとうございました